水野教育長記者会見 概要

日時：令和7年6月23日（月）16時00分～16時40分

場所：大阪府庁別館6階 委員会議室

教育委員会の取組みについて

【水野教育長より】

①大阪府不登校支援センター「まいど」の設置について

不登校児童生徒が増加する中で、「すべての子どもが学びへアクセスできる環境整備」の一環として、府域小中学校の不登校児童生徒の学びの機会の保障や社会と繋がる環境を構築することを目的に、大阪府教育センター本館5階に、大阪府不登校支援センター（愛称「まいど」）を開設しました。

愛称の「まいど」には、My Design、My Drive、My Dream～私のデザインがやる気と夢につながる～という意味を込めています。

子どもたちへの支援としましては、オンラインと通所による支援を行います。

オンラインについては、自宅などとZoom等を使ってつないだ遠隔での学習支援、内容としては、算数や社会など学校の授業などで取り扱うものや身近なテーマを題材にして、探求しながら進めるものなどを予定しています。また、クイズなどのレクリエーション、府内の施設等についてオンラインで中継した社会見学など、多様な機会やつながりを持つ場の提供を考えています。

通所については、大阪府教育センターの本館5階に部屋を設け、子どもたちが自分のペースで学習に取り組んだり、複数の子どもたちが一緒に集団でレクリエーションを行ったり、時には校外学習のように外で体験活動を行ったりすることなどを考えております。

そして、不登校の子どもを持ち、不安や悩みのある保護者に対する支援として、電話での相談を受け付けるほか、保護者がお互いにつながる機会や、居場所や進路に関わる情報の提供を行う機会を持つことなどを考えています。

対象は、政令市立、国立、府立、私立学校に在籍する子を除く、大阪府内在住で不登校等の状況にある小・中学生です。特に、学校や市町村の教育支援センター等ではつながりにくいと感じている児童生徒を対象と考えており、不登校等の状況にある子どもたちにとっての多様な学びの選択肢の一つになればと考えております。

もし、「まいど」での学びを必要としていそうな方がおられましたら、ご紹介いただければと思います。

②「おおさか Safety Bicycle つながるサミット」について

来年の春から自転車に交通反則通告制度が始まるなど、高校生世代の自転車を取り巻く社会情勢が変化していることを踏まえ、昨年度、生徒が主体的にヘルメット着用を含めた自転車の安全利用について「考え、学び、行動する」ことを目的とした「Safety Bicycle 推進校」プロジェクトを大阪府教育庁と大阪府警察本部交通部が連携・共同して立ち上げたことは、みなさまにご案内のとおりです。

このたび、8月6日（水曜日）、ホテルアウィーナ大阪において、推進校等が集まって、自転車安全利用を議論する「おおさか Safety Bicycle つながるサミット」を開催します。

本サミットの目的は、2つです。

1つめは、Safety Bicycle 推進校の実践や成果等について発表し、府内の学校における交通安全教育の充実を図ります。

2つめは、高校生が自転車の安全利用について議論することで、高校のみならず、府民に対して、高校生から自転車の安全利用を発信し、府内の交通ルールやマナー遵守の意識向上に繋がりたいと考えています。

記者のみなさまにも、高校生同士の議論を通じて、クリエイティブな発想や交通安全について、日頃感じていることなど、社会課題に向き合う高校生の姿を、ぜひとも取材いただければ幸いです。

③「1人1台端末を活用した学びの姿」紹介リーフレットについて

府教育庁では、国のGIGAスクール構想による児童生徒の1人1台端末の更新について、市町村と連携をして共同調達を行うための共同調達協議会を昨年3月に設置しました。

この協議会では、端末の共同調達を行うだけではなく、端末の利活用の活性化に向けた方向性や、端末を効果的に活用した事業などの在り方等についても協議を行っています。

昨年度は、1人1台端末を活用して、どのような学びが求められるのか、協議をしました。その内容をふまえ、各教科等で情報活用能力等の資質・能力を育成するために、1人1台端末を効果的に活用した学習場面を子どもたちの「学びの姿」としてわかりやすく示すことが重要であると考え、GIGA第2期でめざすべき「学びの姿」を写真等で紹介した、教職員向けの本リーフレットを作成しました。

学校等での端末の効果的な活用に向けて、活用場面等を見やすくまとめ、校内研修等で端末を活用した学習場面のイメージを共有したり、実際の場面で端末を活用した学習指導に生かしたりするための資料の一つとしていただきたいというコンセプトで作成しています。

大阪府のWebサイトにも掲載し、広く公開していますので、ぜひ、多くの府民の方々にもご覧いただき、現在の大阪府の学校現場で1人1台端末を活用し、どのような授業や教育活動が行われているか、また、今後、大阪府としてどのような授業をめざしているのか、知っていただきたいと思います。

④講師登録説明会の開催について

府教育庁では、大阪府内公立学校教員の欠員解消に向け、教員免許保持者の掘り起こしや、教員のキャリア形成のサポートなど、年間を通じて講師の確保に努めているところです。

このたび、7月7日（月曜日）、9日（水曜日）に、大阪教育大学天王寺キャンパスにて講師希望者登録説明会を開催します。

他に地区別説明会として、7月10日（木曜日）に北河内地区、7月11日（金曜日）に南河内地区、7月14日（月曜日）に泉南地区、7月15日（火曜日）に泉北地区、7月16日（水曜日）に中河内地区、7月18日（金曜日）に三島地区にて、それぞれ開催します。

この説明会では、講師制度の説明に加え、大阪府の公立学校の教育事情や講師経験者からのメッセージを紹介するとともに、個別の相談会も予定しています。

大阪府内の公立学校講師としての勤務に興味をお持ちの方は、ご都合の良い日時・場所で、ぜひご参加ください。

講師登録については、説明会当日に限らず、オンライン等で随時受付をしております。詳細は府ホームページをご覧ください。

⑤「大阪府公立高校進学フェア 2026」・「第33回大阪府産業教育フェア」の開催について

大阪府内の公立高校等の魅力と、進学時に必要となる情報を伝え、中学生が進学に明確な目標を持ち、充実した学校生活を送る一助とすることを目的とし、「大阪府公立高校進学フェア」を開催します。

今年度は、7月27日（日曜日）に、会場はインテックス大阪で開催します。

会場では、学校ごとに個別ブースを設置し、各校教員が学校の特色や魅力ある取組みなどについて説明するとともに、教員への質問なども行うことができます。

すべての府立高校が一堂に会して、学校別に説明を行う唯一の機会となりますので、高校進学を考えている中学生を中心に、多くの方のご参加をお待ちしております。

なお、ご来場に際して、一点お願いがございます。例年、多くの方にご来場いただいておりますことから、入場までに待ち時間が発生するなど、ご迷惑をおかけすることがありましたので、今年度は時間帯ごとの事前受付を、オンラインにて実施します。

事前受付を行っていただいた来場者から順に入場の案内を行います。待ち時間の短縮にもつながりますので、ぜひとも事前受付を実施くださいますようお願いいたします。

なお、当日受付も可能ですが、会場の混雑状況などによっては、入場までにかなりの時間を要する可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

詳細は、府ホームページ内に「進学フェア特設ページ」を設けておりますので、ご確認をお願いいたします。

あわせて、今年度は「大阪府産業教育フェア」を同会場内で開催します。産業に関する学科や系列を設置する府内の高等学校などの生徒が、学習の成果を総合的に発表することにより、本府の産業教育の活性化を図ることを目的としています。

より多くの方に興味関心を持っていただけますよう、中学生に限らず、小学生や大人の方々にも楽しんでいただける体験や展示をご用意しています。

産業教育フェアについても、詳細は府ホームページにおいて案内しておりますのでご確認ください。

両フェアとも府立高校の魅力に触れていただけるいい機会となっておりますので、小中学生をはじめ、多くの方のご来場をお待ちしております。

⑥大阪府立中之島図書館 令和7年度特別展「海の玄関口・大阪港 その歴史を紐解く」の開催について

大阪府立中之島図書館では、6月13日から7月26日まで、令和7年度特別展「海の玄関口・大阪港 その歴史を紐解く」を開催しています。

大阪の発展には、港が重要な役割を果たしてきました。古代の港「難波津」は国際港として栄え、中世から近世にかけて水運が発達すると、大阪には全国から物産が集まり、「天下の台所」と呼ばれるほどにぎわいました。明治時代には、大規模な築港工事が始まり、現在の大阪港の原型が造られました。

今回の特別展は、大阪港にスポットを当て、古代・中世の港や、明治時代以降の築港工事に関する資料など、大阪の港に関する資料を約70点展示します。

今回の展示を通して、数々の苦難を乗り越えて、大阪の港を造りあげてきた人々の知恵と思いを感じていただければ幸いです。

なお、本展示については、7月5日（土曜日）16時から、当館職員による無料のギャラリートークを開催します。6月28日（土曜日）には、「大阪港は、古代から世界に開かれた国際港だった！」をテーマに関連講演会を図書館内で開催予定です。こちらは有料となっております。

講演会はすでに定員に達したため、申込みの受付は終了していますが、詳細については、中之島図書館指定管理者のホームページをご覧ください。

⑦大阪府立中央図書館「第18回 あなたのおすすめ 本のPOP広場」の作品募集について

昨年11月、全国学校図書館協議会が公表した「第69回学校読書調査」によると、5月の1ヶ月間に読んだ本が0冊である「不読者」の割合が、中学生は前回は10.3%増で23.4%、高校生は前回は4.8%増の48.3%といずれも前回から増加に転じました。

府立中央図書館では、中高生みなさまに、本にもっと親しんでほしいという思いから、「あなたのおすすめ 本のPOP広場」を開催しており、7月2日（水曜日）から9月5日（金曜日）まで、作品の募集を行います。

府内に在住、通学している中学生や高校生に、おすすめの本を1枚の小さな紙に絵やメッセージにして伝える「POP作品」を制作していただきます。

応募いただいた作品は、府立中央図書館において、10月10日（金曜日）から11月9日

(日曜日)まで展示します。

各作品については審査員が選考を行い、入賞作品は11月22日(土曜日)に、広報担当副知事の「もずやん」もご列席の上、表彰式を行います。

中高生個人でも学校単位でも応募可能ですので、多くの本との出会いの機会として、お気に入りの1冊をご応募いただきますようお願いいたします。

また、展示期間中は来館者の方々による来館者投票も行いますので、力作ぞろいのPOP作品をご覧、ぜひ府立中央図書館までお越しください。

⑧大阪府立中央図書館 2025年大阪・関西万博と「知」を繋ごうプロジェクト

「知る×感じる 万博イン図書館」について

5月に開催した、万博に関するクイズラリーに続き、今回は第2弾として「大阪ウィーク・夏の陣」の期間に合わせ、8月1日に図書館に併設しているライティホールにおいて、「知る・感じる 万博イン図書館」と題した公開イベントを開催します。

万博に関する情報番組などでおなじみの、万博サポーターの藤井秀雄さんと、落語家・桂文五郎さんによる万博トークショーやバーチャル万博体験など、見どころ満載の内容となっております。

なお、イベントの総合司会には、講談師の旭堂小南陵さんをお迎えします。入場は無料で、事前申込みの方には、万博オリジナルノベルティをプレゼントしますので、ぜひご参加ください。

約300万冊の蔵書を誇る中央図書館では、万博のテーマに関連する図書も多数所蔵しています。万博をより深く理解し、楽しんでいただくためにも、中央図書館をご活用いただければと思います。

⑨大阪府立近つ飛鳥博物館 令和7年度夏季企画展の開催について

府立近つ飛鳥博物館では、7月27日(日曜日)まで、令和7年度夏季企画展「古代人、食べる～食と考古学～」を開催しています。

「食べる」ことは、いつの時代も生きていくうえでは欠かせないものでありながら、これまで、古代の人々の食生活はまだまだ明らかになっていません。

なぜかと言いますと、食べ物は早い段階で腐ったり、朽ちてしまったりという、いわゆる日本列島の温暖湿潤な気候や酸性土壌の特性から、当時の食べ物が遺跡から出土することが稀なためだそうです。

今回の展示では、謎の多い古代人の「食」について、「とる」、「食べる」、「だす」、「捧げる」という4つの行為をテーマとして取り上げています。

遺跡から出土した希少な、植物や動物・魚の骨など食物に関わる直接的な痕跡のほか、石器や土器、木製品などの道具の中から、「食」にまつわるものを紹介し、おもに弥生時代から奈良時代にかけての古代人の「食」について考えるものです。

会期中には、専門家をお招きし、古代の「食」に関する講演会を開催するほか、顕微鏡を使って古代人の食べ物を観察する体験会など、様々なイベントを用意しておりますので、この機会にぜひご来館ください。

⑩教育長による府立学校訪問について

令和7年度に入ってから、私自身も様々な府立学校に訪問させていただいています。その内容は、Xの方にも訪問記録という形で発信しておりますので、そちらもあわせてご覧いただければありがたいです。

質疑応答

○個別最適な学びに係る調査研究について

(日経新聞)

先日の議会での答弁の中で、「今年、府立、公立の小中学校および高等学校の10校を研究指定校にして、AIを効果的に活用した個別最適な学びについて、調査研究を実施する。」とありました。

調査研究というところだと思いますが、今後、もし成果が出るとしたら、どのように広げていきたいのか、どういったことを成果として認めるのかなど、どのようにお考えでしょうか。

(水野教育長)

議会の中で、不登校に関する文脈で答弁させていただいたと記憶しています。1人1台端末があり、オンラインで学ぶという活用法がありますので、今後のことを考えると、例えばメタバース空間を活用した学びの場の提供であるとか、Zoom等による遠隔で学びにアクセスできる環境をより保障できる社会になってくると思います。

実際、我々大人も仕事も、記者の皆さんなら会社に行き、部屋に入っているいろいろな記事を書いていた時代と比べると、外に出ながらも遠隔で、パソコン一つで記事が書くことができ、繋がることもできている。オンラインミーティングも当たり前になったと思うんです。

そのような社会変革の中で、教育においても、そのような研究は、より進めていく必要はあると思います。

もちろん、すでに研究が進んでいるものもありますけれども、より未来を見据えた形の一つとしては、メタバースなどは研究の余地はあると思っています。

(日経新聞)

メタバースは少し下火になっているようなイメージがありますが、何年スパンくらいで活用にいたるのでしょうか。

(水野教育長)

テクノロジーの進展等を合わせながら進めていく必要があると思います。コロナ禍のときに、メタバースを活用したものは話題になりました。しかし、あのときのメタバースは、オンライン環境を結構選ぶ必要があった状況だったと思います。端末のスペックであったり、回線であったり、公教育で使ううえでの情報管理でもセキュリティの部分がかんがえ難いところがあったりもしました。

しかし、そのあたりがテクノロジーの進展により、例えばVRとメタバースが融合したとすれば、もっと違う形でできるのではないかと、ARと融合させていくことができれば、メタバース空間ならより自分らしくなれるという子もいるのではないかなど、まだまだ可能性はあると思います。

日本社会全体の中での活用も見据えつつ、教育自体が遅れをとらないようにという意味合いで、引き続き検討・研究をしていきたいと思っています。

○大阪府不登校支援センター「まいど」の利用状況、期待する効果について

(読売新聞)

発表事項にありました不登校支援センター「まいど」についてですが、開設から1ヶ月経ち、利用状況はどういった状況でしょうか。

また、水野教育長は不登校の支援にずっと携わっておられました。子どもによって、その理由等も異なるので一概に言いにくいところもあるかと思いますが、この「まいど」の開設において、教育長としてアドバイスされたことや、期待しているようなことがあれば教えていただけないでしょうか。

(水野教育長)

相談件数に関しては、開設を周知してから大体2週間ほどで、お問い合わせが6件来ていた状況です。これから、府内の各市町村でも周知がされ、徐々に問い合わせが増えていき、その中から実際にオンラインや来談等による保護者の相談に繋いでいく形に展開していく予定です。

2点めのご質問に関しては、おっしゃっていただいたように不登校をどうするかという言い方をしても、不登校自体があまりにも多様で、傷ついて、なかなか人と喋れなくなっているような不登校から、元気いっぱいだけれども、学校なんておもしろくないと学びに適應できずに、自分で勉強するというタイプの不登校、発達に課題があるケース、経済的な理由によるヤングケアラーのような不登校など、いろんな種類の不登校が多様化しております。

そのような中で、私が思う不登校支援は、一つの施策で全てを解決しようとしなくていいです。「まいど」を開設するから、もう不登校対策は大丈夫だというのは、不登校の対応としては、苦しいです。

私が思うのは、1枚の布で例えるなら、多様な不登校の子どもたちに対して、学びのアクセスを保障していくために、多様な居場所支援やオンラインによる支援など、そういったものをたくさん作り、パッチワークのように支援をいっぱい重ねて、1枚の不登校支援というものを作っていくというイメージです。

「まいど」に関しては、各市町村でもすでに教育支援センターという機能もあったり、学校にも校内サポートルームがあります。オンライン支援もあります。

しかし、不登校の子どもによっては、オンラインは少しやりづらいと感じる子、市町村の教育支援センターも少し行きづらいと感じる子、学校の別室だと誰かに見られるから不安だと感じる子がいるかもしれません。もしかしたら、保護者も学校に対して不信感があり、市町村の教育委員会が絡んでるところは嫌だとおっしゃるケースもあるかもしれない。

そういったケースをサポートするところは今まで民間にしかありませんでしたが、そこに大阪府という、ある意味スケールメリットを持った我々が一元的に、そういった人たちの受け皿となるような「まいど」になればいいなと思っています。

○学校教育審議会への諮問（視覚支援学校・聴覚支援学校のあり方）に対する

教育長の受け止め

（読売新聞）

教育委員会会議にありました、「視覚支援学校・聴覚支援学校のあり方」に関してです。これから学校教育審議会に諮問をするというところではあり、教育委員のみなさんからもいろいろとご意見が出ましたけれども、水野教育長ご自身としては、この二つの支援学校のあり方について、今後はどのようにしていくべきか、どのような方向性を出してほしいと思われているか、教えていただけないでしょうか。

（水野教育長）

先ほど開催されました教育委員会会議で、委員の皆さんから多様なご意見をいただきました。

視覚支援学校・聴覚支援学校に通う子どもの数自体は減少傾向です。この理由として、視覚や聴覚というところをテクノロジーで拡張できるようになってきており、そういったツールを使えば、支援学校に行かなくても、地域の学校に通うことができるという子が増えているので、視覚支援学校・聴覚支援学校に通う子どもの数が減りつつあるという見立てがあります。

我々として考えないといけないのは、なかなかテクノロジーだけでは難しいような事例の子たちは通うけれども、通う人数自体が少なくなることで、いろんな人と関わる機会が減少してしまうため、再編整備的、ハード面的な議論を進めつつも、同時にソフト面で視覚支援・聴覚支援と分けて専門性を発揮してきましたが、ときには知的障がいや肢体不自由などと重複しているようなケースも私自身も見てきましたので、今後はもう少しそのあたりを

いい意味で越境し合えるような未来を、私はイメージしています。

ただ、審議会の形で専門家の意見を冷静にしっかりと伺いしながら、将来のそのあり方を見定めていきたいと思っています。

○大阪府不登校支援センター「まいど」の周知について

(共同通信)

先ほどの大阪府不登校支援センター「まいど」の話について、広報・普及をしていく段階だというお話でしたが、こういった形で広報に取り組んでいらっしゃるのか、伺います。

(水野教育長)

小中学生が対象ですので、市町村教育委員会にこの「まいど」のコンセプトの説明をしっかりとしているところです。

それを受けて、市町村教育委員会においては、各市町村の教育支援センター、学校や不登校のことで悩んでいる保護者に対して、周知を広めていただいているところです。

もちろん府教育庁としても、ホームページやウェブ等でもしっかり発信していきたいと思っています。

○万博子ども優先列車について

(毎日新聞)

先日の本会議で答弁された、2学期に万博無料招待で来られる子どもたちのための優先列車について大阪メトロと調整中ということでしたが、現状何か進展があったかどうか伺いたいです。

(水野教育長)

優先列車自体は1学期に来られる学校が多く、2学期に入れば少し落ち着いてくるだろうという算段もあり、子ども優先列車に関しては1学期間のみでした。

このことに関しては、状況を見定めて、我々が列車を走らせるという権限がもちろんないですので、引き続き、要望をしていかないといけないということです。特に、議会答弁段階から何か前に進んだかということはございません。

○学びの多様化学校について

(時事通信)

府立高校の進学フェアに関連してですが、不登校特例校はこのフェアに参加されますか。また、募集がいつからなのかなど、スケジュールで決まっているもので、教えていただけるものがあれば、教えてください。

(水野教育長)

学びの多様化学校に関しては、このタイミングではまだ募集が始まっておらず、来年の夏をめどに転入学を受け入れていきますので、今年に関してはフェアにおけるブースはございません。

○高校授業料無償化による影響に対する教育長の受け止め

(日経新聞)

高校授業料無償化についてお伺いします。今度、参議院議員選挙を控える中で、維新の会としては高校授業料無償化を今までの成果として強調されたいと思われま

す。一方で、公立高校の定員割れのお話も出てきますが、授業料無償化の影の部分

(水野教育長)

これについては、光を見るのか、影を見るのか、どちらから見るかによって大きく変わるところです。

まず、私の認識では、授業料の無償化は、子どもたちが行きたいところをしっかりと選ぶことができる世の中になっていくことになり、これに対しては前向きに捉えております。

ただ、私は府立高校の設置者の立場ですので、府立高校の人气がどんどんなくなっていき、志願者割れが続いてしまうと、設置者としては、あまりよろしいことではないことになりま

す。しかし、私の立場は私学も含めた大阪全体の教育の両翼が私立と公立であるという立場です。

仮に、私立の人气が上がっていくことによって、よりよい教育もでき、子どもたちも私立を経済的な理由なく選べるようになれば、大阪全体の教育の質の総量としては、影というよ

うな表現をする必要はないのかなと思っています。ただ、府立の視点だけで見ると、おっしゃるように影と言われる部分はあろうかと思いますが、その影も、なぜ影となるのかを考えていけば、なぜ私立には人气があり、時には府立は割れてしまうのかという私立との違いに、府立がさらにより良い教育をしていくためのヒントがたくさん隠れていると思うんです。

広報の仕方、カリキュラムやハード面など、様々なところで私立と比較できる要素が出てきますので、刺激を受けて、府立が子どもたちのためにより良い教育環境を作ることができたら、また大阪全体の教育の質の総量は上がるじゃないですか。それが、切磋琢磨だと私は捉えております。

ですから、国で授業料の無償化が参院選前に進んでいますが、我々としては、大阪全体の高校教育の質を高めるチャンスであると捉えています。

(共同通信)

教育の質の総量が上がっているという受け止めをされていましたが、一方で、私立は広告費に予算を多くかけることができたり、入試科目をしぼるなどして、人を呼ぶことができたり、そのネックとなっていた授業料を抑えることができるようになったり、逆に私立の間でも授業料を値上げするような動きもあったりすると思います。

実際に、授業料無償化によって、今のところ教育の質の総量の向上に役立っているという実感は、教育長としてはおありということでしょうか。

(水野教育長)

それがこれから、より起こっていくんだろうと思っています。

大阪では先行して、国の無償化よりも前段階でスタートしています。昨年度の私立の専願率は確かに高まりました。一方で、授業料無償化の中でも、60%の中学3年生は府立高校を選んでいるという事実もあります。その数値は、府立高校として絶望的に悲観する数値ではないと思うんです。

ただ、国による授業料無償化が進み、私立の強みがより生かされていく中で、もし府立が何も変わらなければ、府立高校を選ぶ子どもたちは、私立の方に流れていってしまう可能性があります。そうなると、大阪全体の教育の質の総量として、どう見るかという議論が苦しくなりますので、府立高校がより魅力的であろうとするきっかけとするしかないと考えているところです。